

透析病院における COVID-19 に対する濃厚接触者の同時隔離透析

医療法人衆和会 長崎腎病院

○中村麻美 手島和代 植木秀一 津久田健太 佐藤泰崇 田中 健 林田征俊 丸田麻莉絵 原田孝司
船越 哲

【背景】

多人数同時治療を行う透析室の環境は、感染対策においてハイリスクな空間である。COVID-19 は陽性発覚のタイミングや濃厚接触の如何次第では、感染対策に迅速で柔軟な対応を求められる。

【目的】

当院では 2020 年 12 月に 2 名の外来透析患者の COVID-19 陽性例を経験した。エピソード時、診断時から濃厚接触者(最大 8 名)の同時隔離透析までの、医業継続計画(MCP: Medical Continuity Plan)に基づく対策と対応について報告する。

【方法】

2020 年 3 月より、「最大 40%のスタッフ減」を想定し、入院患者を 50%削減し多部署間のクロストレーニングを実施、並行して血液浄化センターにおける空間的・時間的隔離を基本とする感染対策を作成した。スタッフの意識を高めるとともに、COVID-19 陽性者・濃厚接触者の発生に備えてシミュレーションを行った。

【結果】

当院 2 例目ではスタッフ・患者合計 17 名の濃厚接触者が発生した。スタッフは全員 2 週間の自宅待機、患者は当院で入院隔離・同時隔離透析とした。エピソード期より MCP により対策を講じていたため、円滑に同時隔離透析を行うことができた。